



サーバス九州

日本サーバス九州支部会報 No. 199

2024年5月12日 支部長 S.S.

新緑のさわやかな季節となりました。とはいえ時折、初夏の気配も感じられます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

ゴールデンウィーク期間中は支部総会を開催した中之小路賓館（旧佐賀県知事公舎）が特別公開され、大勢の方が新緑に包まれた特別な空間を楽しまれ、大盛況だったようです。

現在日本人でも知らないような場所や小さな離島も外国人によって知名度が上がったり、日本の魅力を再発見するなどこれまでの古いイメージは覆されているようです。

梅雨入りも間近なようです。体調を崩されませんようにお気をつけください。皆様の協力を得て、サーバス九州支部会報 5月号が出来上がりました。次の内容でお届けします。

支部長 S.S.

1. [2024年度 サーバス九州支部会議を終えて](#)
2. [支部会議 ミニ講演](#)
3. [ホストおよびトラベラー体験レポート](#)
4. [九州支部現況](#)
5. [編集後記](#)



1. 2024年度 日本サーバス九州支部会議を終えて

九州支部会議が去る4月13日に開催されました。詳しくは、先日、各会員にメールで配信されたファイル「**2024年度日本サーバス九州支部会議議事録**」をご覧ください。

- ・日時：2024年4月13日（土）14:00～16:30
- ・会場：佐賀市 中之小路賓館（旧知事公舎）
- ・出席者：12名 県別出席者数：福岡県4名、佐賀県2名、長崎県3名、大分県；2名、宮崎県1名

議事内容

- 1) 2023 年度活動報告
- 2) 2023 年度決算報告及び
会計監査報告
- 3) 役員改選
- 4) 2024 年度活動計画案
- 5) 2024 年度予算案
- 6) その他



これまで、福岡開催が続いていた支部会議でしたが、今年、久しぶりに佐賀に場所を移し、旧知事公舎「中之小路賓館」での開催となりました。最近 TV でも紹介されていましたが、歴史を感じさせる趣のある会場で、12名の参加者が集いました。そして、福岡の Y 会員の議長進行のもと会議は進められ、時間が経つのも忘れるくらいに、いろいろな意見も飛び交う中に会議を無事終了することができました。

今年は、会議前と後に懇親会（食事会）を行いました。会議前は、佐賀県知事が来客おもてなしに使用していた一階洋間で、近くの老舗旅館「あけぼの」からの出前弁当をいただきました。会議後は、手作りとうふと佐賀牛の店「水匠（みしょう）」で楽しいひと時を過ごすことができました。意見交換の中で、全支部会員の共通理解が必要な事項について、再度確認をお願いします。



○11月に大分開催予定の秋例会については、上限15人くらいでSERVAS台湾と韓国にも案内状を出す。

○昨年同様、支部会計から各県に活動補助費を支給し、県単位での交流・親睦活動に活用する。

○サーバス旅行とトラベラー受け入れ報告を確実に支部長まで

- ・日本サーバスの Web ページ「トラベラー受け入れ報告」から入力報告をする。今年からさらに、本部から自動的に転送されたメールをそのまま、支部長に転送してほしい。

○年会費納入については、前納入制で、該当年の1月31日が納入期限となっている。今年度会費の未納会員は、早急に振込をお願いします。

○SERVAS ロゴ入りの小物や、海外へのお土産になりそうなものの製作

- ・新しいロゴ入りの九州サーバスの旗を製作する。
- ・ロゴ入り小物として何を作るか、デザイン、配送の仕方など、小物製作担当を別に作る事が望ましい。

○LOI 作成時など、IT 関係だけでも手助けしてくれる方がいたら助かる。

○Servas On Line(SOL)の利用の仕方の中で、特に次の4点について、より簡単にまとめてみました。必要な方は役員までお知らせください。

- ① トラベラー受け入れ報告 ② サーバス旅行報告
- ③ Email 変更の仕方 ④ LOI 編集の仕方

募集中!!
デザインが得意な方、
IT 関係を手伝ってくださる方
役員まで連絡をお願いします。

日本サーバス九州支部会議報告

Y. Y. (福岡)

4月13日土曜日、佐賀市、中之小路賓館にて、九州支部会議が行われ、私は、福岡市から参加しました。サーバス2年生です。

佐賀市は、遠く離れているわけではありませんが、じっくり散策したことがなく、ちょっとした旅行気分になりました。中之小路賓館にたどり着くまでに、駅前の道をかなり歩きます。その通りの両側には、佐賀県の偉人25人の方々の銅像が並んでいます。

中之小路賓館にたどり着くまでも、何人かの偉人に会うことができます。その一人が、下村湖人です。下村湖人といえば、「次郎物語」。昭和30年生まれで、テレビっ子の私は、池田秀一さん主演のNHKドラマ、ペギー葉山さんが主題歌を歌っていた、そんなことを思い浮かべます。全国放送で、地元出身作家の作品がドラマで放送される。当時の佐賀県民の皆様の誇らしさがわかるような気がします。ちなみに、池田秀一さんは、現在、人気アニメの人気声優として大活躍。ご存じでしたか？

支部会の会場、中之小路賓館は、旧知事公舎。建物のパンフレットがあるほどの歴史的建造物。庭も広くて、四季が楽しめる木々が植えられています。かつては、池に水が張られ、立派な鯉が泳いでいただろうと想像できる造りです。昭和天皇が宿泊されたこともあるそうです。昔、武家屋敷があった地域なので、「武家屋敷を知事公舎にしたんですね。」と、私が見つけたようなことを言うと、すかさず、地元のN会員から、「武家屋敷のように知事公舎を建造しました。」と。佐賀県人のプライド、ちょっと、違う！明治に建てられ123年間、42人の知事の住まいとして使われたそうです。働きの内容を選定して、使用が許可される



そうです。この会場使用に関する佐賀会員の方々のご尽力に感謝いたします。

会議では、議題に対して前向きな意見が出され、サーバスの活動がより積極的になるようにという方向に進められたと思えました。県別交流会のための補助金が、昨年度に引き続き予算化され、各県内の方達との交流の楽しみができました。交流会は、会議と違って、フリートークで皆様と交流ができるのが、私としてはうれしいです。他県の交流会にも参加したいくらいです。九州支部限定のサーバスグッズ開発というのも、いいですね。グッズを通して、サーバスの知名度を上げたり、活動を活発にすることができそうです。

支部会の最後は、N会員による「葉隠」についての講演。「葉隠」って、佐賀県民の肝なんですね。武家屋敷を模して知事公舎を建造することや、下村湖人の作品の根底に流れるもの、何よりも、N会員の佐賀県民としての誇りに通じるものを感じました。N会員が、メモ書きのような原稿で、ファミリーヒストリーを語るように、「葉隠」を語ったことに感動しました。このように地元の歴史に精通し、地元を誇らしく思っている方にホストされる旅行者は、佐賀訪問を存分に楽しむことができることでしょうか。はい、私も頑張ります。

支部会議が終わると、すぐに、エクササイズの情報交換をしている方々いらっしゃいました。旅行を楽しむためには、健康第一ですものね。サーバスって、深いだけでなく広い！

やっぱり、サーバス会員になってよかった！皆様、これからも、よろしくお願いします。

2. 支部会議 ミニ講演

支部会議の最後に、佐賀のN会員に「葉隠」ミニ講演をしていただきました。ずっと立ちっぱなしで、一言一言をかみしめながら丁寧に、中之小路賓館の雰囲気ぴったりの、とても興味深い貴重なお話でした。準備していただいたレジュメを、ここに紹介させていただきます。

「葉隠」とは何ぞや ～ その成り立ちと内容について

N.M. (佐賀)

1) 成り立ち

1700 (元禄 13) 年 5 月 16 日、佐賀藩二代藩主鍋島光茂公没、享年 69

1700 (元禄 13) 年 7 月 9 日、御側役・山本常朝出家し黒土原に隠棲、42 歳

1710 (宝永 7) 年 3 月 5 日、田代陣基、黒土原の庵に山本常朝を訪ねる、33 歳

* それから足掛け 6 年間、師の談話を書き留める

1716 (享保 1) 年秋、田代陣基、師の談話を中心に纏めた備忘録を 11 巻に纏め常朝に提出するが「火中すべし」と言われる。

1719 (享保 4) 年 10 月 10 日、山本常朝没、享年 61

2) その内容 ～ 全部で 11 巻 1343 項目

「教訓」1、2

「藩主並びに御家族の言行」3、4、5

「御国古来の事など」6

「佐賀藩士たちの言行」7、8、9



「他藩の噂・由緒など」10

「補追」11

3) 口述者・山本常朝の死後、憂国の藩士たちの間で廻し読みや書き写しによって伝わる。

4) よく知られた言葉

「武士道と言ふは、死ぬ事と見附けたり。」

「武士道に於て遅れ取り申すまじき事」

「主君の御用に立つべき事」

「親に孝行仕るべき事」

「大慈悲を起し人の為になるべき事」 ~ 「葉隠四誓願」

「よき事をするとは何事とぞといふに、一言にいへば苦痛さこらふる事なり。

苦をこらへぬは皆悪しき事なり。」

「奉公は今日一日するときへ思へば、如何なる事もさるるなり。

一日の仕事ならば、どうにもこらへらるべし。翌日も亦一日なり。」

3. ホストおよびトラベラー体験レポート

ドイツサーバス滞在記(2024年2月13日~2月20日)

T.N. (福岡)

ニュールンベルク (2月13日~16日)、フランクフルト (2月17日~2月20日) でそれぞれ2か所、4つのホストファミリーにお世話になりました。

ホストファミリーの方がたとの交流の中から感じたドイツ滞在記を記してみたいと思います。

ニュールンベルク、初めてこの街の名前を知ったのは多分歴史の教科書だったのではないかと思います。ドイツを訪ねるようになって長い年月がすぎましたがなぜかこれまで足を運ぶ機会がなかった場所です。

今回、世界最大のオーガニック見本市「BioFach」が2月に開かれていることを知り訪ねることとなりました。

せっくなのでサーバスメンバーの方々と交流できたら楽しいだろうなとコンタクトを取ることになりました。サーバスオンラインが開始されてからのホストメンバーへのコンタクトは初めてのことです。文明の利器活用に苦手意識が強い私ですがたくさんの方がたに手取り足取り親切にしてくださいのおかげでなんとかLOIが間に合いました。

助けてくださった皆さま、その節は大変お世話になりありがとうございました m(..)m。

最初の訪問先は2023年11月に新しくサーバスのメンバーに登録された養護学校の先生Bさんファミリー。奥様のBさん、まもなく19歳になる好奇心旺盛なKさん、はにかみやさんの16歳のAくん。

事前にご自宅までの行き方を尋ねると「駅まで迎えに行くので列車の到着時間を教えてください」とのこと。最近のドイツ鉄道は遅延、突然の運休が頻繁でスケジュール通りに列車が到着するかドキドキ。前日にも「明日はよろしく」「楽しみに待っています」のやり取りをしたものの、肝心の待ち合わせ場所についてはお互いに取り決めすることを失念していて、駅で迷子になってしまい構内放送で呼び出してもらおうというハプニングを経ての初対面でしたが、穏やかで温かい雰囲気の中Bさんに会えた時はほんとうに救われた気がしました。

偶然にも彼らのおうちから見本市会場は歩いて30分ちょっとの距離にあり「歩くのが好きだったら歩いてもいいですよ」と会場まで散歩がてらファミリーで同行してくれました。

ニュルンベルクはナチス政権下で、毎年数千人規模の全国大会が開かれていた場所でもありその面影が街のあちこちに残されていて、集会の会場となった広場には2メートル四方の大きな石畳が敷き詰められていました。

18歳のKさんが「この杵を2歩でこうして行進したんだよね」と実際に歩いて見せてくれました。子供たちが歴史の授業で80年以上前の歴史の現場を野外授業で実際に訪れ、リアルに体感し想像を巡らせる時間を持ったのだと感じました。ニコニコしながら行進する真似をしてくれたKさんでしたが、一体何年生の時の授業で、その時にどんなことを感じたのか尋ねてみればよかったなあ、と今となっては思います。この4月に19歳のお誕生日を迎えるKさんとはいろいろおしゃべりができました。日本にも興味を抱いているようなのでいつかお迎えできたらいいなあ、と思っています。お誕生日を教えてくださいましたので先日バースデーカードを郵便で送りました。今はメールで瞬時に連絡が取れる時代ではありますが、郵便受けに自分宛の郵便が届く嬉しさを彼女なら受け取ってくれるかなあ、と思いながらお便りしたのでした。

見本市会場に着くと、4日間の通し件が96ユーロ（1万6000円近く）する上に、入場は仕事で関係のある人しか許可されておらず、名刺のみでは本人確認ができない、パスポートを見せろ、と言われてしまい、お宅に置いてきてしまったので、今日の入場は無理だと私自身はあっさり諦めたのですが（というのも、ドイツの窓口では一旦ダメだと言ったら頑なに拒否されることが多く、反論してエネルギーを消耗するのはうんざりと私はあっさり諦めたのですが）Bさんはクレジットカードではダメなの？本人でなければ複数のクレジットカード所持はありえないでしょ、と掛け合ってください無事入場することができました。入場後、見本市会場でいろいろな体験ができ、入り口でのことはすっかり忘れてしまっていた私でしたが彼らはこの日の夜も「なんて感じの悪い融通のきかない人たち、ドイツ人として恥ずかしいわ」と話題にしていました、同じ国といってももちろんいろいろな人がいるわけですが、ヨーロッパを旅していると教育レベルの高い人たち、という表現が適切かわかりませんが「同国人として恥ずかしい」という表現をされる人によく出会います。余談になりますが、ずいぶん前、フランスの郵便局の窓口で記念切手を貼って日本にハガキを出したいと思い、切手を求めようとするも英語もドイツ語も全く通じず、窓口の人が「いったい貴方はどうしたいの！」と怒り出してしまい萎縮していると、親切な青年が「どうされましたか」と英語で話しかけてくれ、私が綺麗な切手で手紙を出したいのだというと上手に通訳して下さっただけでなく最後に「貴女に不快な思いをさせたかもしれないことを同国人である僕から謝ります、彼女は悪気があったわけではないのだと思う

のです」と言われてびっくりした体験があります。そうした行動、発言ができる人たちがいる国というのは素晴らしいと感じます。

4日間通っても全てを見ることはできないくらいの広さと内容の見本市でしたがドイツをはじめ世界中からの出展にたくさんの収穫がありました。

初日の帰り道に真っ暗なひと気のない道で迷ってしまい、心細くなり偶然通りがかった自転車の人に助けを求めると、自転車から降りておしゃべりしながら20分近く一緒に歩いてくれました。オーガニック見本市の出展者か訪問者？と思い尋ねると、ニュールンベルク市の市議員さんで、環境問題担当なのでオープニングのレセプションに出た帰りだったそうで、車でなくて自転車というところがドイツらしいなあ、と感じました。話は13年前に北朝鮮を訪ねた際に見聞きした話題となり、北朝鮮が外国人向けに案内するコースを巡って感じたことのシェアはとても興味深く、そして思いがけないご親切に感謝したのです。

家に帰り着くとこのエリアの郷土料理を二人で用意してくださり、楽しい夕べとなりました。Bさんは昨年ニュージーランドを旅している際にサーバスのことを知り、会の趣旨に共感し、メンバー登録をされたそうです。

2日目は夕方から街を案内していただき、夜は地元の音楽学校の生徒さんの練習の場、ということで美術館の地下のカフェで開催されたコンサートにご一緒させていただきましたが、アーティストのレベルの高さは普段から楽しく集う聴衆たちに育てられていくのだろうと感じた素敵なひとときでした。

柔和で穏やかなお人柄のBさんでしたが、「ワグナーの作品にニュールンベルクを舞台にしたものがありますよね」という話には「ワグナーは僕の世界観とは違う」ときっぱり。おそらくナチスとの関係を指しているのだろうと思いそれ以上、話を続ける雰囲気ではなくなってしまう、ということも印象に残っています。

とても素敵なファミリーで家族で初めてのゲストを気負わず、けれど全員でもてなしてくださっていることがとても有り難く、心地よい時間となりました。

持参した友人作のお干菓子とお茶でお茶会を楽しんだり、16歳のAくんが思いがけず折紙に興味津々で「鶴」と「風船」くらいしか作れないのですが、どちらもとても喜んでくれ嬉しかったです。

今回の旅では想定外のハプニングが起きました。ニュールンベルクでは後半2日間お世話になる予定だったご夫妻がインフルエンザにかかってしまい、前日夕方にメールで受け入れキャンセルが伝えられかなり戸惑いましたが、急遽、別の方が受け入れてくださることとなりました。



せっかくご縁をいただくホストの方々とはできればその後も交流が続けられると良いなあと思いながら、事前にメールのやり取りを何回も交わし、喜んでいただけそうなお土産も持参したりするのですが、急に決まったバックグラウンドも知らない次のホストは牧師さん出身のYさん、大学で宗教学をおさめ、牧師さんから今は学校で10歳から15歳の子供たちに宗教学を教えている方でした。



お家に到着すると寝室のテーブルには水仙の花が飾られ、ミネラルウォーターが準備されていて、前日の夕方に急に決まったのにウェルカムの準備をさりげなくしてくださったのだとその温かいお気持ちに感動しました。

私は大学を卒業した後、1年ちょっとドイツの日本企業で働いたことがあるのですが、同じ時期に同じ街でYさんは6年間大学に通っていたことがわかりどこかですれ違っていたかと思うほど近くに住んでいたこともわかり驚きました。イタリアへバイク旅行をしたり、以前はサーバゲストの受け入れも積極的にしていたのだけれど、今はお仕事が忙しくて私は久しぶりのゲストだったようです。

関心も多岐に渡り、おしゃべりが弾み、楽しい時間をすごすことができました。

ヨーロッパの歴史地図が1冊の本になっているものを見せてくださった時には「そうか、ヨーロッパの国の区分は歴史とともに刻々と変化していてドイツやフランス、イタリアという国の形も随分変化してきているのだ」と地図を見ながら実感しました。国の形が変わっていない日本と、多数の民族がその歴史的背景で入り混じり国の形が変化してきたヨーロッパとは当然感覚も異なるのだろうと感じました。

4日間のニュールンベルク滞在の最終日、翌日訪問予定のホストに確認のメールを送信しました。出発の1ヶ月以上前から数回のやり取りをしていた方ですが、移動当日の朝、出発直前に急用が入ったので受け入れができない、とのメッセージを受け取り、流石にパニック状態となりました。どうして良いか分からず、その後に訪ねるつもりであった方に前倒しで受け入れてもらうことができないか、と思いYさんにサポートをお願いして彼が電話で事情を説明すると、快く応じてくださり予定は急展開、この日の午後にフランクフルト市内でお茶を飲みましょう、と約束していた女性には状況の変化でお会いできなくなりましたと、とりあえずショートメッセージをなんとか送信し、バタバタと駅に向かいました。後日この女性からドイツサーバス事務局に急なキャンセルをした変な日本人がいた、と報告が入ったそうです。確かにその後「あの日はごめんなさいね」とフォローのメールか電話を入れるべきだったという反省はあるのですが正直かなりのショックを受けました。旅にハプニングはつきものです。お茶を飲む約束を急にキャンセルせざるをえなかった旅行者の立場を想像できれば、「その後無事にすごしていますか」とメールを返信することはできると思うのですが、返信もありませんでしたし、当日午後の約束でしたから彼女が待ち合わせ場所で待ちぼうけしたという実害があったわけでもないと思うのですが…。いろんな方がいらっしゃるし考え方もあると思いますがコミュニケーションの難しさを感じると

ともに、日常生活の中で寛容に接してくださる周りの方々にちがった意味で感謝の念を新たにしました。

予定変更でお尋ねした方は、1993年に初めてサーバス旅行をした際に訪ねた国が日本だったというDさん。ホストリストが小冊子であった時代には年齢、職業、訪ねたことのある国、話せる言語が略号で記されていて、限られた情報でどんな方かと想像し、まずはお便り（あるいはメール）を出し、お返事を待つ、返信の様子からもその方がどんな方なのか想像する、というプロセスが私には楽しみでした。中でも過去に日本を訪ねたことのある方には日本でどんな経験をしたんだろう、どんな感想を持っているのかしらと、興味をそそられてコンタクトをとることが多く、実際に会ってもお話しが弾むことが多かったことを思い出し、今回も日本を旅した経験のある彼女にメールすると、Dさんは「私の日本旅行のアルバムを早くお見せしたいです」と迅速なお返事を下さいました。そして、急な予定変更にもかかわらず快く迎えてくださり「最寄り駅からはタクシーに乗ってもワンメーターくらいだから」との情報まで頂いていましたが、駅前のタクシーの運転手さんからは「歩いて4、5分だから」と乗車拒否され、トランクをゴロゴロ引っ張って15分近くかかってお宅に到着することとなりました。乗車拒否の話をする、「そんなことはあってはいけない」と早速タクシー会社にクレームを入れたようです。何かにつけてアクションが早い行動的な女性でした。

そして、30年以上前の日本訪問のアルバムを開きながら昨日のこのように楽しそうに語ってくれました。そのアルバムには今はサーバス活動を卒業されたHさんと他界されたご主人様の写真、並んで直筆のメモが大事そうにアルバムに貼ってありました。

メモには「迷子になったらこのメモを見せなさい」と住所と電話番号が記されていて、Dさんは「この方たちには本当に親切にして頂いたの」と懐かしそうにお話しされていました。

帰国後、Hさんの90歳のお誕生日にお電話をしてその事をお伝えするととても喜んでくださいました。Dさんとの交流は誰かの親切な行為が巡り巡って今の得難い時間になっているのだと改めて感謝したひと時でした。

Dさん訪問は月曜&火曜の予定が週末に前倒しとなったのですが、最初のお約束の月曜訪問の予定でも私は日中仕事で時間がないのでデイホストができる友人を紹介しますね、とHさんを紹介してもらっていました。

そのご友人Hさんがなんと月曜&火曜でホストを受けてくださいました。

サーバスを知ったのはDさんを通じてとのことで複数の外国語にも堪能で、外国での生活経験も豊富、ユーモアに溢れ、好奇心旺盛な素敵な方でした、身体を動かすこと、芸術鑑賞が特に好きだそうで、近所を散歩する時も「どのくらい歩きたい？」と尋ねてくれ、「1時間くらいね、お散歩コースも距離別コー



スがあるのよ」とのんびりお散歩しながら、いろんな花の名前を教えてください、近隣の街の歴史についてもたくさん教えてくださいました。

毎週通っているというスポーツジムにも一緒したり、ずらりと並ぶCDラックを眺めているとお好きなアーティストについての話が次々に…。音楽を心から愛し、楽しんでいる様子が伝わってきて日々を楽しむ姿がとても素敵でした。

アメリカ資本の大きな会社の広報関係の仕事を20年近くされていたそうですが、忙しすぎて家族との時間が取れない、という理由で学校の先生に転じたそうです。日本では普通の企業に勤めていた人が途中から公立学校の先生になることは制度上難しい気がするのですが、そうした選択ができるのは素敵だと思います。ホストで迎えてくださったどの方も親切で温かいおもてなしをしてくださいましたがHさんとはまさしく「気が合う」心地よさがあり、密度濃い2泊3日で、その後もフランクフルトから帰国するならまた帰りに寄りませんか、とメールをくださったたり、また会っておしゃべりできたら、と思うだけでウキウキするような楽しい方でした。

4. 九州支部現況

〈2024年5月10日現在の会員数〉 38名（家族）

福岡県：14名 佐賀県：2名 長崎県：7名 大分県：8名
熊本県：3名 宮崎県：3名 鹿児島県：1名

5. 編集後記

止まるところを知らない、歴史的な円安で迎えたゴールデンウィークです。個人的には、ドイツへのグループ旅行を直前に控え、準備の真っ最中ですが、私たち日本からの旅行者にとって、現地でのどのような現実が待っているのか、少し怖い気もします。それでも、やはり期待の方がかなり大きいサーバス旅行です。

計画をするにあたり、「以前ホストした方の所にお世話になる」とか「海外のサーバス meeting に参加した時の友人に会える」などの声が聞えてきます。サーバス活動を通して築かれた友情が、時を経てもなお今だに継続できている、この「つながり」こそが「サーバス」だと言えます。

旅行者体験レポートの中にも、とても素敵なドイツのホストたちとの出会いがたくさん綴られており、益々、久しぶりのヨーロッパサーバスの旅、I can't wait!

M.M.